

# わ せ だ ゆ き 早稲田夕季のひまわり通信

2006年10月 No.10

## 18年度9月定例会の一般質問・活動報告です

### 早稲田夕季の一般質問！

平成18年度

総務常任委員会委員長

鎌倉市市有財産審議会委員

鎌倉市と逗子市は4月に、生ごみ処理や焼却について2市が共同で行なう計画を立てるための覚書を結びました。これまでの経緯では、鎌倉市は生ごみ資源化施設、逗子市は焼却ごみ施設を分担する方向性が出ていますが、逗子市では鎌倉市とのごみ処理広域化に対する温度差があることが、先の6月定例会で明らかになりました。



### 逗子市とのごみ処理広域化について

**問** 鎌倉市は平成18年中に広域化に向けたごみ処理の地域計画や生ごみ資源化施設の計画書を作るために1,500万円の予算をつけており、生ごみのモニタリング調査を既に一部の地域(大町、今泉等)で実施している。逗子市との広域化に向けた協議の進捗状況はどうか。

**答弁** 両市の生ごみ処理量や焼却量等、各施設建設の負担金を試算しており、両市で同時期に公表する。その推計資料に基づいて、今後広域化を進めていくことを協議していく。逗子市民にも理解、協力得られるように努める。

分別の進んでいる鎌倉では新たな生ごみ分別をしなければ、これ以上焼却ごみは減量化できない

鎌倉市

鎌倉の人口は逗子の3倍でしかも1,800万人の観光ごみをなぜ逗子で燃やすのか。ごみ収集車の交通渋滞問題は？

逗子市

**意見** 両市の垣根を取り払って広域化を考えるには？

鎌倉市が現在燃やしているごみの量は約44,000トン。そのうち39%を占める生ごみ(推計)を資源化すれば、燃やすごみは17,000トンまで減少します。逗子市でも分別が行なわれれば、焼却ごみは10,000トンに。両市の焼却ごみ量は現在逗子市が燃やしているごみ18,000トンの約2.1倍に

抑えられるというのが、計算上の数値です。しかし、植木剪定材の分別がまだ実施されていない逗子市で、生ごみまで分別する事に理解が得られるのか疑問です。より積極的な情報交換、両市民への情報公開や説明が必要です。鎌倉市の勇み足にならないように、両市がじっくりと協議、検討していく体制づくりを要望します。

### 世界遺産登録推進に向けて

**問** 世界遺産登録推進に向けて市民の機運を高めようと、「鎌倉世界遺産登録推進協議会」が7月に設立された。市民と協働で取り組んでいくということだが、具体的な活動、事業の予定は？

**答弁** 広報部会と登録推進事業部会の2部会が主体となって活動していく。今年度は会報を2回発行していく予定で、登録推進の浸透を図るための説明会やシンポジウムなども検討したい。

**意見** 9月に政府の世界遺産推薦が決定した平泉では、暫定リストに載った5年前から世界遺産の住民説明会を実施しています。また、小中高生対象の「ときめき世界遺産塾」を開催し、藤原文化の若き担い手の育成にも力を入れています。

コアゾーン周辺地域での出前講座や、武家文化を体験する子ども講座などを提案しました。市民意識を高めるには誰を対象にどんなことをすべきか、まず

市がしっかりと目標を定め、市民の協力を得る必要があると考えます。



## 岡本2丁目マンション建設

「開発区域への市有地と市道の編入同意は認められないとする決議」は多数で可決

私も決議に賛成の立場を取り、賛成多数で可決。昨年の12月議会では、県審査会からNOの判断が出たので原状回復決議に賛成。再申請に対する許可か不許可の判断をする前の2月議会では、決議に反対。今回の決算委員会の質疑で以下の点が明らかになり、市有地を編入してマンションの開発許可を出したことは不適切であると判断しました。

- 県の開発審査会で道路とは認められないとされた石積み擁壁の市有地は、公共施設(道路)ではないから開発区域に編入することはできない(都市計画法32条)。
- 階段状の市道の編入について同様の事例はあると市から説明されていたが、決算委員会で極めてレアケースであることが判明した。調べたところ、由比ガ浜の若宮ハイツ横のわずかな公園用地11㎡を編入した事例だけで、現在住民に利用されている道路数十メートルを開発区域に組み込んだことは他に例がない。

この問題は、現在2回目の県開発審査会で審査されています。決議は市民の声を反映したものです。鎌倉市は行政のプロとして、まちづくりのあり方を決断してほしいと考えます。



深田独活動報告会で激励の挨拶をする浅尾慶一郎民主党県連代表

今年で50周年の節目を迎える「鎌倉市民文化祭」、地域住民による企画運営により今年で10回目となる「極楽寺・稲村ガ崎アートフェスティバル」に加えて、鎌倉芸術祭の開催で、この秋の鎌倉は、まさに芸術の秋一色になりそうです。

芸術が生活に息づく社会は、ひとりひとりの個性を尊重すると同時に、個人が自立した社

会である、と私は考えています。経済合理性を最優先にしがちな現代の日本社会にあって、地域住民による自主的な文化・芸術にかかわる活動は、地域を活性化させる原動力になり、また、ひとびとの暮らしを豊かにしていくにちがひありません。お仕着せの文化事業ではなく、地域住民が試行錯誤のなかから自ら生み出していく文化的な活動が各地に広がり、政治や行政や地元企業が陰ながらそうした活動を支援していくことによって、未来の日本を切り拓いていく意識、発想、そして人材が、地域のなかに育つていくものと確信しています。

鎌倉の町をあげての鎌倉芸術祭がこの秋うぶ声をあげようとして、心をこらうれしく思うと同時に、鎌倉芸術祭が市民参加型の事業として鎌倉の地に根づいていくことを心から期待します。

11月に開催される「第1回鎌倉芸術祭」では、美術、音楽、文学など幅広いジャンルにわたっての多彩な催し物が企画されています。それにしても、発起人や実行委員の方々のお名前を拝見すると、鎌倉にはなんと文化や芸術にかかわる豊かな人材がお住まいであることか、とあらためて驚かされます。

## 京都市 行政視察報告

2006年  
4月25日・26日

- 京都市景観・まちづくりセンター
- 東山区役所
- 八坂通り(電柱地中化事業)
- (株)まち創生研究所
- NPO 法人「京町家再生研究会」

景観・まちづくりに関する情報を提供し啓発するシンポジウムや各種セミナーを実施している「京都市景観・まちづくりセンター」を視察しました。昨年、古都のまち並みを象徴する「町家」の保全に向けて「京町家まちづくりファンド」を立ち上げ、町家の改修費用を助成しています。まちづくりファンドは地域的な課題への取り組みに、国土交通省が支援をするものです。鎌倉でも別荘建築や商家の建物が取り壊され、マンションなどによって寂しさを感じる人も多いはず。今後の研究により、鎌倉らしい景観保全の課題に取り組むファンドの実現を期待しています。



■京町屋の足袋屋さん



■電柱を地中化した八坂通り

「東山3K協力金事業」では寺社や企業、商店街が協力金を出し合って、観光シーズンの交通誘導やトイレ貸し出しへの助成を行なっています。公衆トイレ不足は鎌倉市でも慢性化しています。特に若宮大路沿いや小町通りで、コンビニや土産店、飲食店などに協力してもらえる手法を検討する上で参考になりました。

※詳細は視察報告書(情報公開)又はHPのブログで

## 民主党

2007年神奈川県議会議員選挙(鎌倉市)  
公認候補予定者に決定



民主党神奈川県第4総支部副代表

ひとり  
**深田 独**

1960年2月3日生まれ(46歳)  
西御門育ち、植木在住

1986年 慶應義塾大学大学院  
文学研究科修士課程修了